



## ハウステンボスの 安全・安心への取組



長崎県 ハウステンボス(株)  
取締役 管理本部長 和田 光

### 1 ハウステンボスが 大切にしていること

ハウステンボスは、ヨーロッパの街並みを再現した日本一広いテーマパークとして、長崎県佐世保市に1992年3月に誕生しました。ハウステンボスの広さは、東京ドーム33個分あり、毎年、国内外から数百万人のお客様をお迎えしています。街中に四季折々の花々が咲き誇り、イルミネーションやショーの数々、最新技術を使用したアトラクションがありますが、ご来場いただいているお客様にこの楽しい時間をお過ごしいただくため、ハウステンボスのスタッフは、お客様の「安全と安心」を最も大切にしています。

### 2 安全安心への取り組み

ハウステンボスでは、開業当初から、街

にあるべき警察署と消防署を兼ねた専属の部署があります。この部署は、防火、防災、防犯を主業務としており、お客様が事件事故、災害に遭わないように、その予防活動や対応を行います。場内消防車、場内救急車を備え、スタッフには各種資格を持ったエキスパートが在籍し、24時間体制で勤務しています。そして、今、この活動を一つの部署が主体的に行うのではなく、全ての部署で取り組んでいけるように始めました。



場内消防車



© ハウステンボス / J-19969

### 3 防火・防災管理講習

2021年7月に日本防火・防災協会の講師をお招きし、防火・防災管理講習を開催しました。これまで防火防災講習は、防火管理者数名が受講していましたが、社長を含めた社の全幹部及び全施設の責任者100名が受講することで、ハウステンボスの防火・防災の知識と能力の向上を図りました。これまで防火防災の知識を持った者だけが予防対応を行ってききましたが、意識と知識が向上したことで、施設のスタッフから建設的な意見が活発に出てくるようになりました。



防火・防災管理講習の様子

### 4 災害対策組織体制

ハウステンボスには、災害予防について話し合う防災協議会、災害対応を行う防災対策本部と各地区自衛消防隊が設置されています。防災協議会は定期的に行われており、防災対策本部と各地区自衛消防隊の代表者と話し合い、図上訓練等を実施して、現在の予防対応方法について話し合います。話し合いの結果は、防災対策本部と各地区自衛消防隊に示達し、現場訓練に反映させ、現場訓練後は、新たに発見した課題についての話し合いを行い、災害に備えています。

### 5 地震災害対策

長崎県佐世保市では、これまで震度4以上の地震が発生したことはありません。しかし、今後発生すると予想される大地震に

備え、物資・資材、救護や避難誘導のスタッフ行動を策定した災害対策計画を策定しています。計画には、地震発生時に、防災対策本部と11の地区自衛消防隊がすべき行動と避難経路図が記載されており、自衛消防で定められた通報連絡班、消火班、救護班、避難誘導班以外に資機材を備えた専門の救助班、インバウンド対応の国際班等、あらゆるリスクを想定した対応が記載されています。この計画に基づき、全エリア対象の総合防災訓練、各エリアごとの訓練、各施設ごとの訓練を開園前に実施し、対応力を養っています。

### 6 救命講習全スタッフが受講、AEDを増設

ハウステンボスには、社員以外にパート・アルバイトが多数在籍していますが、全てのスタッフがいざという時に救命行動ができるように、2021年から救命講習を全スタッフが受講することになりました。ハウステンボスには、応急手当の普及員が在籍しており、救命講習を自社スタッフで行うことができるため、時間やシフトをやり繰りし、現在1200名が受講しています。今後、受講3年以内に再受講できるように調整しています。また、AEDを歩行距離100m以内に設置し、現在23カ所に設置しました。

緊急時に適切な初動と救護が確実に実践され、お客様をお護りできるように、スタッフとAEDが万全の体制でお迎えます。



救命講習の様子